

子どもをもって感じたこと

保育士として現場で過ごしている時、子ども達に対して「次にすることや出来事」などをしっかり言葉で伝える、ということをお大切に思っていました。

そのため妊娠が分かり“9月末出産予定”と知ってから、毎日おなかに向かって『9月に元気に生まれてきてね』と声をかけるようにしました。

産休に入り、正期産（37週～）が近づいてきた8月末頃からは、『正期産になったらいつでも出てきていいからね』と胎動を感じるたびに伝えました。

正期産になる前日の夜、「ついに明日から正期産だ」と思い、もう一度おなかに向かって声をかけ、ドキドキしながら横になりました。

すると、日付が変わって午前3時に破水、そのまま病院へ…

そして翌日には出産する流れになり、予定日の20日前に息子が生まれました。

偶然かもしれませんが、自分が伝えていたことが現実になり、もしかしておなかの中からずっと私の言葉かけを聞いていて、『今だ』と思って出てきてくれたのかな…と嬉しくなりました。

出産後、退院してきてから自宅で過ごす新生児との時間…

保育士として毎日子ども達と関わっていましたが、新生児に接するのは我が子が初めてだったので、分からないことばかりで試行錯誤の日々。

3か月を迎えるまでは昼夜の区別もなく、本当に不安ばかりでした。

この生活にも慣れてきた頃、保育園の申し込みとなり、『息子とこんな風に過ごせる時間もあと少しだな』と育休の終わりが近づいていることを徐々に実感しはじめました。

丁度同じ時期に昼夜の区別もつき始め、生活リズムも少しずつ安定してきたので、赤ちゃん会や子育て広場（こんぺいとう・はひふへほ）に参加するようになりました。

ところが地域の子育て支援はコロナ禍で参加人数が制限されていて、なかなか予約が取れない状況もあり、横のつながりを持たず不安を感じている母親達がいる、ということも知りました。

今まで保育士として子ども達をお預かりする立場でしたが、自身の妊娠・出産を経験したことで、『母親』としての視点から、嬉しさや楽しさ、悲しさ、辛さ…など、さまざまな気持ちを感じています。また私自身、息子とともに地域の子育て支援会場に参加することで、現状やそこに集うお母さん達のリアルな表情や空気感を知ることが出来ました。

今年度は保育園として、地域で子育てをする方に向けて『つどいの広場』を行います。

そこで少しでも不安な気持ちをプラスに変えて頂き、この地域で一緒に子育てに携わる仲間としての繋がりを大切にしていきます。

そして、私自身お母さん1年目として、一つひとつの経験を『学び』に変えて、保育士としての仕事にも活かしていきたいと思っております。

（池之座）

